

令和6年度 学校経営計画書

石川県立門前高等学校

校長 中澤 賢

1 教育目標

- (1) ふるさとに誇りを持ち、自ら学習を調整することで身につけた資質・能力を活用することにより、地域の活性化に貢献できる人間の育成
- (2) 高い規範意識と活力に溢れ、自分の良さや可能性を認識するとともに、多様な人々と協働できる人間の育成

2 中・長期的目標

(1) 学校の現状

① 目標管理型校務運営と組織的・協働的業務の推進

- ・教職員は、教育目標実現のため、分掌・学年・教科・個人において、PDCAサイクルで現状分析を行い、改善に努めている。
- ・教職員は、分掌・学年・教科において組織的・協働的業務推進に努めており、働き方改革につなげている。

② 魅力ある教育活動の推進

- ・輪島市の魅力化プロジェクトを活用し、入学者数の増加と進路保障につなげている。
 - 野球部指導アドバイザーによる野球部強化策とおした入学生増加
 - 学習支援センタースタッフと協働した学習指導による生徒の学力保障と進路実現
- ・門前町・總持寺通り商店街と協働し、生徒の潜在能力を引き出す探究活動の推進と地域社会発展の担い手の育成
- ・連携型中高一貫教育校の特性を活かした地元中学校との連携による教育活動の推進

③ 2つのコース（普通・キャリア）の特性の明確化による教育活動を推進し、成果につなげる必要がある。

④ 震災による教育活動の遅れと学習環境の復興を早急に図る必要がある。

⑤ 多様な生徒の増加に伴い、インクルーシブ教育をはじめ、教員の生徒理解力・教育相談力を高める必要がある。

(2) 生徒に関する中・長期的目標

① 総合的な探究の時間・部・生徒会等によるボランティア活動等による、門前町總持寺通り商店街の復興について探究し、取組を提案・実践できる資質・能力を育成する。

② 門前町・總持寺通り商店街の方々との交流や「震災後のこころのケア研修の取組」等とおして、他者への思いやりと敬愛する心を育む。

③ 低学年次より進路意識を醸成し、個々の卒業後の進路実現に向けて、自主的学習に努力し続けることができる生徒を育てる。

④ GIGAスクール構想を活用した個別最適な学びによる学力向上を図り、自己の進路実現や部活動に努めさせ、目標達成とおして人格の形成と将来地域を支える人材の育成を図る。

(3) 教職員、学校組織等の望ましい在り方

① 「生徒は教師を映す鏡である」ことを意識して生徒の目線で自身の教科・生徒指導を振り返りながら、特に低学年次の教科指導力・生徒理解力を高める工夫・改善に取り組む。

② 「震災後のこころのケア研修」等の教育相談的研修等とおして、教員の「相手の気持ちを推し量る力」を高め、生徒理解力、教育相談力向上につなげる。

③ 教員が主体的に「門前町總持寺商店街の復興」をテーマとした3年間の系統的探究活動に取り組むことで、自身の「探究活動指導力」の向上を図る。

④ 本校両コースの特性を理解して教育活動に取り組むとともに、低学年次から進路意識を醸成できる資質・能力を養成する。

⑤ GIGAスクール構想を活用した目標管理型の教科指導・分掌業務を効率的・戦略的に推進し、ワークライフバランスとの両立を図りながら、質の高い教育活動を実践する。

3 今年度の重点目標

(1) 「門前町・總持寺通り商店街の復興」をテーマとした3年間の系統的探究活動に取り組むことで、教員・生徒が学習や部活動時の下支えとなる「探究力」を育成する。

(2) GIGAスクール構想とおして、低学年次より個別最適な学びに取り組ませながら、両コースの特性の充実と資格取得と学力向上を図り、卒業後の生徒の多様な進路実現につなげる。

(3) 「危機管理マニュアル」の見直しを図り、教員・生徒が非常時に適切な行動ができる資質・能力を高め、減災につなげる。また、生徒が安心して学校生活を送れるよう安全管理を徹底する。

(4) 組織的・協働的に目標管理型校務運営による業務改善を進め、ワークライフバランスと教育活動の両立を実践する。

(5) 「震災後のこころのケア研修」等の教育相談的研修等とおして、教員の「相手の気持ちを推し量る力」を高め、生徒理解力、教育相談力向上につなげる。